

【第2回総合計画策定審議会】

■日時：2022年4月26日（火）14：00～16：00

■場所：中城村役場4階議会委員会室

■出欠：

- ・出席：神谷委員長、比嘉（春）委員、山城委員、安田委員、平安委員、米須委員、儀間委員
張世委員、伊東委員、伊佐委員、與那嶺委員
- ・欠席：新垣委員、比嘉（善）委員、名幸委員
- ・事務局：企画課、ST

■次第：

1. 挨拶
2. 委員紹介
3. 審議
 - ①計画策定のスケジュール【資料1：策定スケジュール】
 - ②アンケート結果の報告【資料2：アンケートの結果】
 - ③第5次計画の方向性について【資料3：総合計画の方向性】
 - ④施策大綱の構成変更について【資料4：施策大綱の構成変更案】
4. 次回審議会の開催について
5. 閉会の挨拶



■議事録：

①計画策定スケジュール

【説明：事務局 比嘉係長】

- 神谷会長 : ご質問等あれば。感染状況が良くなれば住民と話をする機会は設けるのか。
事務局（比嘉係長） : 時間的な所で厳しいと思う。
神谷会長 : その代わりに3回のアンケートを実施したという認識でいいと思う。次にアンケート結果の説明をお願いします。

②アンケート結果の報告

【説明：事務局 比嘉係長】

- 神谷会長 : ご質問コメントがあればお願いします。
儀間委員 : 11 ページ。福祉施設。良いと普通が多いがここで想定した福祉施設はどのようなものを想定しているのか。
事務局（比嘉係長） : アンケートでは福祉施設としか書いていない。世代によって児童福祉施設や高齢者福祉施設など捉え方が違うかもしれない。すべてを含めた福祉施設としてアンケートを取っている。
神谷会長 : 質問の文章では何と聞いているのか
事務局（ST 森口） : 文章形式ではなく、良い、普通、悪いの該当箇所に○をつける方式。
神谷会長 : 回答の基準をサービス、数、施設状況など、個人個人で想定しているのか。
事務局（ST 森口） : 福祉という大きな括りの中での評価と考えている。
張世委員 : 会議前に資料をいただきたい。今説明されただけでは全部読み切れないので質問もできない。ちゃんと読んで意見を整理しておきたい。
事務局（比嘉係長） : 次回からは事前に配布する。今回の資料についての質問も次回以降受け付ける。
伊藤委員 : 高校生以上の中城村民対象の回答率は、ほかの自治体等に比べて、これを根拠に出来る程度の回答数なのか。どれくらい参考になるのか。
事務局（ST 森口） : 1・2回目の Web アンケートは挑戦的な試み。これまでのアンケートで30代以下の回答者が少なかったという経緯から、若い世代に回答してもらうため。1回目、2回目が有効回答数かということについては評価が難しい。3回目については有効回答数としては使える。第4次のアンケートよりも回収率が下がっている。その理由が明確ではない。
神谷会長 : 統計学的には問題ないと思うが、与那原ではどうか。
山城委員 : 与那原では10代が3.2%、20代が8.4%。ここでも低くなる傾向がある。前回の回収率は20%くらいだった。
平安委員 : 24 ページ。経済的負担が大きいがダントツで1位。幼児教育無償化、公立小中学校によりその点の負担は高くないと思うが、実際にどこの部分で経済的な負担が大きいのか。アンケートで丸を付けていくだけでは分からないのではないかと。
事務局（ST 森口） : 自由記述に色々書いていただいているので、そこを追っていけばわかるかもしれない。アンケートの回答率を上げるために設問をできるだけ簡略化している。自由記述の読み込みをして次回委員会でお示ししたいと思う。
神谷会長 : 複数回答のグラフの作り方が間違っているので訂正を。
第3回の「18歳以下の子どもがいる子育て世帯」の有効回答数 225 とは対象者の

- 何割なのか。
- 事務局 (ST 森口) : 第3回の有効回答数が556に対して225の回答なので40%くらい。
- 神谷会長 : グラフの書き方として回答数が全体の半数を超えていないという説明を入れることが適切。
- 事務局 (ST 森口) : 半数を超えている回答はなかったので、回答としては分散している。
- 神谷会長 : その225人は、若くて複数の子どもがいるという人が厳しいと答えているのか、こういった部分が負担なのか。全国的にみると支援制度があるはずなので、これだけ厳しいと答えている人が多いのはなぜなのか。自由記述から読み解く部分と、今あるデータから読み解く部分があるので、そこから深掘りする必要がある。アンケートを下敷きにして計画や目標を検討していくことになるので、それを念頭に置いて、次の資料説明をお願いしたい。

③第5次計画の方向性について

【説明：事務局 比嘉係長】

- 神谷会長 : ご意見・ご質問があれば
- 事務局 (比嘉係長) : 計画期間が11年になっているが、その考え方の根拠を教えてください
- 事務局 (比嘉係長) : 当初は12年の予定だったがコロナで策定が伸びたことにより1年短くなり、11年になっている。その12年という数字は首長の任期が4年ごとなので前期・中期・後期で計12年となっている。
- 安田委員 : 人口予測をみるとあと20年は人口が伸びる予想となっているが、下地区は農業が盛んな地域なので将来的に考えると、その規制が緩和されたらもっと人口が増えるのではないかと思うのだが、そのあたりも考慮した目標値なのか。
- 事務局 (比嘉係長) : 社人研の推計を基にした数値だが、これまでの伸び率をベースに計算している数値なので、中城村の現状や要素まで加味した数字ではない。
- 安田委員 : 南上原も開発されて人口は伸びているが、下地区は伸びる要素が見えない。今後規制緩和が来るかなと思って質問したが、そうなると学校施設などの環境も大きく変わるのではないかと感じている。
- 神谷会長 : 国で予測している数値を使っている。人口ビジョンとは合っているという事で良いのか。
- 事務局 (ST 森口) : 社人研の推定値は中城がH28に設定したビジョンを上回っている。人口ビジョンでは出生率も転入も一番多くなると考えた場合に2030年の時点で22600人という予測を立てていた。前回の社人研の人口予測に対して、実際の人口では令和2年の段階で既にかなり上回っている。それに伴い改定された社人研の人口推計値に対して、村のビジョンとは乖離がある。
- 神谷会長 : 沖縄県はどこの市町村も社人研の出した数値よりも大体上回っている。村の計画として人口ビジョンと総合計画との人口が違うのは良くないと思うのだが
- 事務局 (比嘉係長) : 今回の総合計画に人口ビジョンを包括して見直しを行うことにしている。
- 神谷会長 : 承知した。
- 伊佐委員 : 計画人口や目標人口と書いているが、何か意図があって定められた目標人口だと思うが、社人研が出しているからではなく、どうしたら若い人が定住するか、働く場所がないとかアンケートでも出ていると思うが、村の現状を見てどのくらいの人口が必要か、どのくらいになるのかなどを書いた方が良く思う。南上原の人口の伸

- びが大きいですが、そうなった要因の分析も必要。そういうところを複数設けるビジョンがあるのか。
- 事務局（比嘉係長）：土地利用としては南上原も長期間の取組みの結果として今の状況となっている。その他の地域は市街化調整区域で、一部緩和がなされているものの住宅が建てづらいという状況はある。住宅が増えれば道路を増やしたりする必要もあるので今後の課題になる。
- 神谷会長：329 バイパス、宜野湾横断道路、西原道路など構想段階まで事業化されているものと、那覇広域都市計画など決まっていること、上位計画、関連計画など整理して出しておいていただくとよい。
 県の21世紀ビジョンと進行計画、その上位計画や関連計画などを共有することで、それを踏まえた形での議論がしやすくなると思う。
 2ページの満足度を上げるというのはどうやって検証するのか。現状の満足度の数値はあるのか。
- 事務局（ST森口）：分野を分けて満足度のスコアを出して総合的な数字をひとつの指標としている。それが目標値に対してどれだけ近づいていくのかを見る。
 各年度の満足度を構成する要素の中でばらつきがあるので、内部の評価検証と村民の分野別の評価を結合しながら見ていく。
- 神谷会長：どういう満足度を図りたいか。満足度を構成するものは年代でも違う。どういうライフステージの人についての満足度を調査するのか、それを明確にしていきたいと思う。
- 事務局（ST森口）：手法についてはご提示していく。毎年どのように満足度の精度をあげていくかというのは課題。
- 神谷会長：毎年全員へのアンケートでなくても、今年は高齢者、今年は子育て世帯というように分けてもいい。どういう満足度を調査するのかという基準は出して頂きたい。

④施策大綱の構成変更について

【説明：事務局 比嘉係長】

- 神谷会長：ご質問等あればお願いします。
- 比嘉（春）委員：子どもに携わる仕事をしているので、子どもに関する施策には力を入れてもらいたいと思う。南上原に子どもが多いはずなのに、児童館を利用している子どもは本当に周辺の子どものみ。学童はお金がかかる。無料の児童館なのでぜひ利用してもらいたいと思っている。上地区には図書館もないので、上地区に図書館併設の児童館などを作る予定はないか。中学校も下地区には一ヶ所しかない。もっと細かい部分の計画も見せてもらえるのか。もっと一人ひとりの声を拾ったうえで計画を作ってほしいという希望はある。
- 事務局（比嘉係長）：上地区への児童館については、議会でも必要ではないかという意見があり村内でも認識はしている。ただ南上原については土地の確保が一番の問題。水面下では民間の力を借りてという話もあるが問題が大きいので今後も継続して取り組んで行く。
- 比嘉（春）委員：上地区には核家族が多いと思いますが、地域のコミュニティ広場など集まる場所があればいいと思う。南上原の公民館に利用を申し込んだら、すでに講座などで全部埋まっていた。もっと気軽に誰でも集うことができる場所があればいいと思う。
- 事務局（比嘉課長）：久場などは学童に行かない子どもたちを地域の人が見たりしていると聞いている。ない施設を作るのは簡単ではないので、ある施設をどうにか活用していけたらいいと思う。
- 神谷会長：次の10年で継続的に住民の意見を聞く、聞き続けるという仕組みを入れてもいい

と思う。アンケートでも目安箱でも何でもいいが、やりたいことをどこに相談したらいいかわからないとならないように、なんでもいいから相談や提案ができるような仕組みづくりを検討してもいいと思う。

インクルーシブの話をするには人のつながりが絶対的に重要。いかに多世代の人がつながることができるか。つながる場、つながる仕組みの構築。図書館についても、上に作るでもいいし、移動図書館でもいいし、週に2回上から図書館行のバスを動かすでもいい。細かいやり方はともかくとして、施設へ行く機会を増やすこと。

与那嶺委員 : 中学校を南上原地区にという話だが、琉大が持っている雑草地を活用できるのか。南上原に交番はできるのか。DX、ICTは中城は遅れているようなイメージがある。またここ2、3年はゴミのポイ捨てが増えていて、ゴミ収集の時間も人口が増えているから遅くなっている。先を見ることも大切だが、今現在抱えている問題をどう考えているのか。

事務局(比嘉課長) : 琉大の土地は広いのか。

与那嶺委員 : 400坪くらいなので、建物はできるがプールやグラウンドは難しいと思う。でも建物さえできれば琉大もいろいろ持っているので、連携できないかと思う。

事務局(比嘉課長) : 予算的な部分もあってなかなか難しいが、DXやICTについては考えていなかったもので意見として伺っておきたい。

事務局(比嘉係長) : DXについては小中学生にタブレットを配布していて、休校の時はオンラインで授業をしていた。行政面でのオンライン申請については遅れていると思うが、取り組んではいる。ゴミについては担当課と調整する。

神谷会長 : オンライン授業については物は配られているが、オンライン授業が始まる以前から先生のスキルの向上が遅れている印象はある。大学の土地は話をしてみる価値はあると思う。

張世委員 : 下地区は少人数クラスでやっていて学力は県のレベルより上回っている。南上原は人数が多いので、今後少人数クラスの検討は考えられているか。

事務局(比嘉係長) : 南上原は計画当初よりも2倍以上の人口になっている。南小もここ何年かで増築を繰り返しながらなんとかスペースを確保してやっているの、少人数クラスとなるとさらにスペースが必要となる。場所の問題としてすぐに少人数は難しいと思う。

張世委員 : 南小の子ども達に少人数クラスが必要かどうかを検討してもらって、必要であれば今後の計画として方法を検討してもらいたい。

神谷会長 : 少人数教育のいいところもあるし、大人数だからいいこともある。村内全部で同じ教育を受けなければいけないのか。中城村はどうなりたいのか、どうなる必要があるのかという意見を出して頂いて共有していく、それに対してどうするのかを考えていけばよいのではないかと。

伊東委員 : 実際に住んでいて、こういったことを役場がやってくれればいいなと思うことがあっても、それを村に届ける機会がないまま忘れてしまう。村内放送を聞き逃したときにHPですぐ情報を確認できたらいいとか、登下校の危険箇所には誰か立っていてくれたらと思うこともあるので、逐一村に伝える体制があるといい。

事務局(比嘉係長) : 村のHPについては、以前はそういった情報を載せているページがあったかと思うので改めて確認しておく。意見箱については、各課で用意しているが探しづらい可能性があるの、HPの改善に取り組む。

神谷会長 : 担当がどこの課かもわからないけど言いたいことがある、ということもあると思う。例えば公民館にも目安箱があって意見をまとめてくれる、など。すぐに対応しろではないので、意見をまとめてまずはそれを知ること。回答はHPで見られるとかにしたらいいのでは。みんなが見える形でコミュニケーションを行う。

- 伊東委員 : イメージとしてはスーパーの直接店長にご意見みたいな感じで、文句を言うではなく、村とのコミュニケーションの場をもっと気軽に持てたらいい。
- 神谷会長 : 小さな村だからできるサービスだと思うので検討してもらえれば。小学校の安全については、すでに警察庁と国交省や文科省など国の機関から各市町村へ連絡が行っている。小学校区単位で手を挙げたら、そういった機関が連携して安全対策の取り組みをしてくれる。
- 米須委員 : 人権問題について具体的にイベントや理解を深める取り組みなどを計画しているか。
事務局（比嘉係長） : 現状はない。今後各課の計画で進めていく。
- 平安委員 : 環境問題についても地球規模で温暖化やSDGSなどが叫ばれているが、これについて施設単位で取り組んでいくことも大切だが、村としても取り組みや方向性を示してもらうとやりやすくなる。護佐丸教育のようにやってもらえると動きやすいと思う。
- 神谷会長 : 大綱の整理について複数にまたがるものがあると思う。それについてどういう扱いにするか。目指す村の姿については、健やかな成長を見守るだけでなく支援する。介護福祉サービスの対象外である元気な独居高齢者、高齢世帯は支援が受けづらい。それについてどう考えるか。南上原について琉大の医学部が移転するので、学生アパートの利用状況が変化すると考えられる。状況を把握しておいた方が良い。
- 安田委員 : 南小学校のキャパが足りないことは課題として出ているので、考えなければならない。分校の跡地などもあるので、分離するのか、施設を拡充するのか、対応を考えなければならない状況にはあると思う。増設しても足りない状況であるという事なので、先手先手で考えるべきであると思う。公立幼稚園が統合してこども園になるということになっているので、その後に小学校の新築（老朽化対応）をすぐにする必要があるという話に教育委員会ではなっている。中学校の新築についても進んでいると聞いている。中学校ではプールがないのでこれも課題。新築した場合にはプールもできると聞いているが、今すぐ何でもできるものではないが、この計画の中には盛り込んでいくことになるのだと思う。
- 神谷会長 : 時間になったので終了する。
事務局（比嘉係長） : 参考資料が2種類あるので帰ってみていただければ。次回は5月下旬か6月上旬予定。日程調整はまたお願いします。

— 終了 —